

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平3-45333

⑬ Int. Cl.⁵

B 60 P 3/00
A 61 G 3/00

識別記号

N 7816-3D
8718-4C

庁内整理番号

⑬ 公開 平成3年(1991)4月26日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全2頁)

⑭ 考案の名称 拡張部を備えた病院車

⑯ 実 願 平1-106836

⑰ 出 願 平1(1989)9月12日

⑱ 考 案 者 外 山 和 明 愛知県宝飯郡小坂井町大字伊奈字南山新田350 日本ト
ールモービル株式会社内

⑲ 考 案 者 竹 下 敏 保 愛知県宝飯郡小坂井町大字伊奈字南山新田350 日本ト
ールモービル株式会社内

⑳ 出 願 人 日本トールモービル 大阪府大阪市中央区北浜4丁目7番28号
株式会社

㉑ 実用新案登録請求の範囲

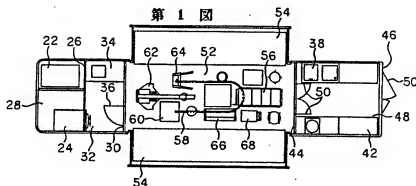
後部下部に走行用車輪を備えた車体の前部を、
発電機、等を取納する機械室となし、車体の後部
を、医療用機械、器具、薬品、等を保管する棚、
作業台、等を取納する準備室となし、車体の中央
部を、巾方向に伸縮自在な手術室にしたことを特
徴とする拡張部を備えた病院車。

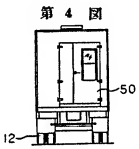
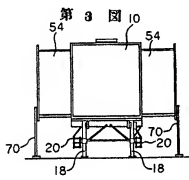
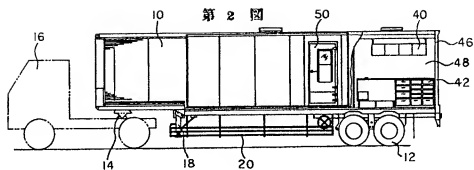
図面の簡単な説明

第1図は本考案をバントレーラに適用して手術

室を拡張した場合の内部平面図を示し、第2図は
本考案を適用したバントレーラの1部切欠側面図
を示し、第3図はバントレーラを拡張した場合の
前面図を示し、第4図はバントレーラを拡張しな
い場合の後面図を示す。

10……車体、42……保管庫兼作業台、12
……走行用車輪、48……準備室、22……発電
機、52……車体の中央部、28……機械室、5
4……副手術室。





公開実用平成 3-45333

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平3-45333

⑬ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成3年(1991)4月26日

B 60 P 3/00

N

7816-3D

A 61 G 3/00

8718-4C

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑮ 考案の名称 拡張部を備えた病院車

⑯ 実 願 平1-106836

⑰ 出 願 平1(1989)9月12日

⑱ 考 案 者 外 山 和 明 愛知県宝飯郡小坂井町大字伊奈字南山新田350 日本ト
ールモービル株式会社内

⑲ 考 案 者 竹 下 敏 保 愛知県宝飯郡小坂井町大字伊奈字南山新田350 日本ト
ールモービル株式会社内

⑳ 出 願 人 日本トールモービル 大阪府大阪市中央区北浜4丁目7番28号
株式会社

明 細 書

1. 考案の名称

拡張部を備えた病院車

2. 実用新案登録請求の範囲

後部下部に走行用車輪を備えた車体の前部を、
発電機、等を収納する機械室となし、車体の後部
を、医療用機械、器具、薬品、等を保管する棚、
作業台、等を収納する準備室となし、車体の中央
部を、巾方向に伸縮自在な手術室にしたことを特
徴とする拡張部を備えた病院車。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は、災害地や、交通事故の現地で緊急に
怪我人の治療、手術を行うことの出来る拡張部を
備えた病院車に関するものである。

(従来の技術)

病院設備から遠くはなれた災害地や、交通事故
の現地(航空事故等)で負傷者が出た場合、従来
のように救急車で病院まで運び治療、手術を行っ
ていると、本来助かるべき人も運搬中に命を落と

すこともあった。

この問題を解決する為に実開平1-82025に示されるように、後部下部に走行用車輪を備えた車体の内部に手術室を備えた緊急病院車があり、さらに本出願人による実願平1-28170に示される、輸送可能な拡張式手術用シェルターがある。

(考案が解決しようとする問題点)

上記実開平1-82025に於ては車体の最大巾寸法は法律で決められているので、内部の手術室の広さは必然的に限定されている。

一方、手術は通常数人で行われ、場合によっては相当な人手を必要とすることもあるので、手術台の両側には十分なスペースが必要であるにもかかわらず、以上のような不十分なスペースでは、満足な手術はできなかった。

又、上記本出願人による実願平1-28170に於ては、トラック、トレーラ、等に載置する必要があるため、取扱ができるだけ容易であるように大きさ、重量に一定の限度があるため、手術に必



用な発電機、医療用機械、器具、薬品、等を保管する棚、作業台、等は別のシェルターで運搬していたので、実際に手術に取掛かる迄に相当な手数と時間を必要とするのが通例であった。

（問題点を解決するための手段）

ここに於て、本考案は以上の問題を解決するために、後部下部に走行用車輪を備えた車体の前部を、発電機、等を収納する機械室となし、車体の後部を、医療用機械、器具、薬品、等を保管する棚、作業台、等を収納する準備室となし、車体の中央部を、巾方向に伸縮自在な手術室にしたことを特徴とする拡張部を備えた病院車、を提供する。

（実施例）

第1図は本考案をバントレーラに適用して手術室を拡張した場合の内部平面図を示し、第2図は本考案を適用したバントレーラの1部切欠側面図を示し、第3図はバントレーラを拡張した場合の前面図を示し、第4図はバントレーラを拡張しない場合の後面図を示す。

本実施例に示すバントレーラは、通常は六面体

の車体 10 の後部下部に走行用車輪 12 を備え、前部下部に突設した第 5 輪 14 が、鎖線に示すトラクター 16 の後部カブラーに回動自在に係合していて、停車時トラクター 16 との切離しが可能なように補助脚 18 を備え、20 はサイドバンパーである。

第 1 図に示すように、車体 10 の前部には発電機 22 と高圧滅菌器 24 が仕切り 26 によって収納される機械室 28 を構成し、さらに仕切り 30 によって消毒室 32 を構成し、流し台 34 を収納していて、出入扉 36 を備えている。

第 1 ～ 2 図に示すように、車体 10 の後部には超音波洗浄装置 38、収納棚 40、保管庫兼作業台 42、等が仕切り 44 と後壁 46 との間に収納され準備室 48 を構成していて、夫々扉 50、50 を備えている。

車体 10 の中央部 52、即ち前記仕切り 26、と 44 との間の左右の両側壁は開口部を形成していて、本出願人による実願平 1-28170 に於て示されるように、この開口部と連通する副手術

室54、54が夫々車体10の中央部52内に収納される場合と、外部に伸びる場合とに任意に移動し得るよう設けられていて、これによって車体の中央部52は、巾方向に伸縮自在な手術室に構成されている。

本実施例に示す手術室には、移動可能な手術台56、点滴レール58、モニター60、レントゲン62、スポットライト64、消毒盤台66、機械台68、等、手術に必要な物が備えられているが、これに限定されるものではなく、種々の場合に応じて備えられる物が変わることは言うまでもない。

特に、移動可能な手術台56、点滴レール58、モニター60、レントゲン62、スポットライト64、等、は可能な限り広いスペース内を移動出来ることが望ましいので、本考案による副手術室54、54を夫々車体10の外部に伸ばすことによって車体の中央部52は、巾方向に大きく伸びて広い手術室に構成され、非常に都合がよい。

さらに、第3図に示されるように、副手術室5

4、54を夫々車体10の外部に伸ばした際、支持脚70、70で支持することもある。

(効果)

本考案は以上の構成から成っているので、走行中は巾寸法を制限以内に縮小出来、災害地や、交通事故の現地で緊急に怪我人の治療、手術を行う場合は、本考案による副手術室54、54を夫々車体10の外部に伸ばすことによって車体の中央部52は、巾方向に大きく伸びて広い手術室に構成され、非常に都合がよい。



4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案をバントレーラに適用して手術室を拡張した場合の内部平面図を示し、第2図は本考案を適用したバントレーラの1部切欠側面図を示し、第3図はバントレーラを拡張した場合の前面図を示し、第4図はバントレーラを拡張しない場合の後面図を示す。

10：車体

42：保管庫兼作業台

12 : 走行用車輪

48 : 準備室

22 : 発電機

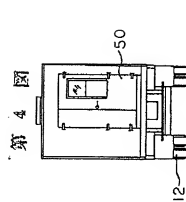
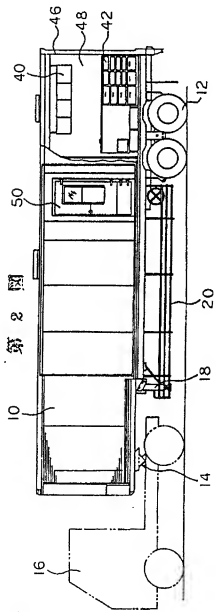
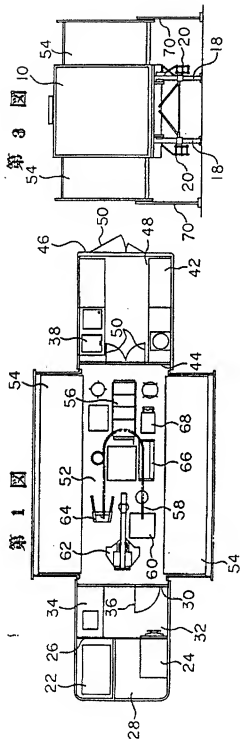
52 : 車体の中央部

28 : 機械室

54 : 副手術室



出願人 日本トレールモービル株式会社



出 願 人